

第45号
2019年6月1日

〇発行
社会福祉法人
鳥取こども学園

鳥取市立川町5丁目417番地
電話 (0857) 22-4206
http://www.tottorikodomogakuen.or.jp/

題字 尾崎悌之助

鳥取こども学園 学園だより



「社会的養護の課題と将来像」の歴史的成果を反古にさせない闘いを

わたしの兄弟であるのもっとも小さい者の一人にたしたは、わたしにしてくれたいのである。(マザー、25歳)

鳥取こども学園 理事長 藤野興一

一、課題と将来像から日本型社会的養護へ

①日本人を「絶滅危惧種」としてはならない。「結愛(ゆあ)ちゃん事件」、「心愛(みあ)ちゃん事件」、「津久井やまゆり園」事件等、児童虐待死や無差別殺傷事件が際限なく繰り返され、児童養護施設や乳児院、里親などに子どもが溢れ返り、施設や寄り添う人が不足しています。もっと安心して子どもを産み育てられる日本にしなければならぬのです。

②2017年8月、「新しい社会的養育ビジョン(新ビジョン)」が国から出された。新ビジョンがモデルとしている欧米諸国は、既に施設から里親へ移行しており、その結果、里親が職業化し、子どもの「たらいまわし」が大問題となつていきます。低下した自尊心と絶望感から、犯罪に手を染める若者も出ています。新ビジョンによって日本の施設が更に企業化することは、なんとしても阻止しなくてはなりません。

③社会的養護当事者と共に、「日本型社会的養護」構築を図りたい。日本キリスト教児童福祉連盟は、2015年と2017年の2度にわたり、施設の高校生とスタッフをカナダ・オンタリオ州トロントのアドボカシー事務所に派遣し、アーウィン所長も日本を訪問されました。2018年7月、金沢で「第1回全国児童養護施設等ユースの集い」を開催し、オンタリオ州議事堂で行われた子どもたちによる公聴会が日本でも実現可能なことを実証しました。

④鳥取県に真に「こどもと共に歩むアドボカシーシステム」を作りたい。2018年9月、私を含む養育研究所のメンバー4人でトロントのアドボカシー事務所とライオンズ大学を訪問し、大歓迎を受けました。帰りに、アーウィン所長やス

タッフから「日本の里親も施設もよくやっている。カナダの様にはなつてほしくない。鳥取にアドボカシーシステムが出来ることを期待したいが、カナダのまねをしないでほしい」と言われ固い握手を交わしました。

⑤「課題と将来像」の実績を反故にさせない闘いが必要。この二年間の攻防が勝負。

⑥大舎だろつが、小舎だろつが、里親だろつが、養子縁組だろつが、常に「子どもの人権」は守られねばならない。子どもの権利条約は、2度の世界大戦のような悲劇を再び繰り返さない為に、子どもと共に未来を創ることに、権利行使の主体者としての子どもを高くに宣言した国際条約です。

西欧諸国が施設を無くして里親へ移行し、職業化した里親によるドリフト(たらいまわし)が横行している現実を直視すべきです。日本でも企業のようになつた施設によって、制度に合わない子どもを平気で切り捨てる人権侵害があつてはならないのです。

日本の社会的養護は慈善事業の時代から、制度の有無にかかわらず、目の前の小さくされた子どもたちに寄り添い続けてきたのであり、今一度日本の民間社会事業の原点に立ちかえる必要があるのです。

度日本の民間社会事業の原点に立ちかえる必要があるのです。

二、福祉切り捨ての大波に抗して、事務局体制・財政基盤の強化が緊急の課題。

①カナダで「新ビジョン」の話をした時、即座に「新ビジョン」の背景は財政問題だと言われた。カナダでは同じやり方で施設が潰された。日本はそうしてはならないと言われたのです。「新ビジョン」は、福祉切り捨ての最たるものです。

②先駆的な取組を構築してきた当法人はもろに打撃を受け、昨年度以降は暫定定員等により財政的に厳しい状況に追い込まれています。

③更にこの度、鳥取と米子で専門スタッフを揃え11年間事業展開してきた「若者サポートステーション事業」が捲られてしまい、結果、非常に厳しい経営状況となっております。

三、事業所内保育施設(企業主導型保育事業)「とりっこらんど」を開設しました。

①4月1日現在、法人には212人の職員がいます。施設では子どもたちの共同生活者であり、家に帰れば、良き母良き父です。子育て職員を年中無休で支える事業所内保育施設(通常保育のほか一時保育・病後児保育も行います)を開設することし、4月1日スタートしました。

②定員9名で生協病院、サンマート、山根機材さんなどと共同で、3歳未満児9名を定員として内閣府の「企業主導型保育事業」制度を利用し、地域の方の利用枠も設けています。

③5千万円を目標に寄付募集しています。ご協力ください。

四、「新ビジョン」による施設運営困難克服のため、何よりも子どもたちの夢実現のため、引き続きご支援下さいますようお願い申し上げます。

6月4日、鳥取労働基準監督署の改善勧告を受け、定額残業制を導入。「とりっこらんど」開設。様々な課題を抱えてよくそ生き延びてたどり着いたと思われる子どもたちこそ保護者に真摯に向き合う職員を支えて下さい。

法人本部

理事長 藤野興一 記

①2019年2月1日、国連子どもの権利委員会は日本政府への5回目の最終見解を出した。

1. 差別禁止について、「包括的/反差別法制定」「婚外子差別等あらゆる子どもに対する差別的規定撤廃」「マイノリティへの差別禁止措置強化」「朝鮮人学校への教科書無償化適用」... 子どもの意見尊重について、「子どもの参加権、意見表明権を速やかに確保する」... 3. 体罰について、「家庭を含め、あらゆる場面のあらゆる体罰を法律で全面的に禁止する」立法措置及び体罰根絶のための措置。4. 更に、「子どもの権利に関する包括的な法律制定」分野横断的に子どもの権利を保護する調整機関並びに評価及び監視のための機関を設置する」等、多くの勧告がなされた。

②結愛(ゆあ)ちゃん事件、心愛(みあ)ちゃん事件を受けて、「体罰禁止」「懲戒権廃止」の議員立法の動きがある一方で、教育分野で再三の勧告を受けてきた「過度な受験競争などによる不登校、子どもの自殺などの存在」に対して、「そんなものは初めから存在しない。証拠を示せ」などと開き直している。③大切なことは「権利ベースの文化を構築」すること、社会のみんながアド

ボキットとなり、子どもの意見を聴くという文化を築くことである。子どものためにではなく子どもと共に歩む「アドボカシーシステム」をインケアユース(社会的養護で生活する子ども、出身者)たちと共に創りたい。2019年8月5~7日に高校生交流会発祥の地・ニュー砂丘荘で開催予定の全国インケアユースの集いを成功させたい。

④アドボカシーを「代弁」や「権利擁護」と訳して、「大人が子どもを護るもの」「大人がやってあげる」ということになってはならない。大人と子どもが「パートナー」となって一緒に活動するのであり、当事者による「コミュニケーション開発」当事者が自らアドボカイトする」と一緒に歩むことである。

・「アドボカイト制度」として「アドボキット」がアドボカシー活動を促す「制度」となり、制度を創ることが優先され、資格とか認定制度の方に話が行ってしまったり、下手をすると監視役となる恐れがある。当面、当事者グループの形成を優先させた。

⑤鳥取子ども学園は、慈善事業の時代から、日本の社会的養護分野の先駆的役割を担ってきており、2011年7月の「社会的養護の課題と将来像(課題と将来像)」及び「日本型社

会的養護」の先行的実践モデルとなっている。

施設解体論を唱える「新ビジョン」登場により改革が止まり、先行的実践をしてきた乳児院等の施設はそのままでは、最初に潰される施設となる可能性が高い。

⑥実際に、鳥取子ども学園乳児部は2018年度暫定定員14名、2019年度13名となった。先駆的に作った乳児と学童2か所のショートステイ・一時保護専用ホームに11名の職員を配置しているが、一時保護所新設の申請をしても件数不足として「トータル」の件数はあっても、ショートステイがカウントされないため認可されず、人件費の持ち出しが多く、苦しい経営を迫られている。

⑦これを打開する道は、第1に、施設現場でぶつかっている制度的課題に対して、施設当事者と共に具体的闘いを展開することである。鳥取子ども学園に事務局を置くアドボカシーシステムを構築したい。第2に、寄付金を集めることにより一層の財政基盤強化を図ることである。既に「ぎんりんグループ」の村上知良、亜田美夫妻を会長として鳥取子ども学園後援会活動を展開している。更にICTを駆使したファンドレイジングにも取り組むこととした。多くの方のご支援をお願いしたい。

新任職員のご自己紹介

◆ふじの家の家あかり



支援員 橋本 央美

昨年12月よりお世話になっております。日々精進してまいります。

◆こまつ家のホーム



保育士 松田 彩花

4月よりこまつ家のホームでお世話になっております。社会人1年目で分からないことも多くありますが、何事も前向きに一生懸命頑張っていきます。迷惑をかけることばかりだと思いますが、よろしくお願ひいたします。

◆ふじの家のホーム



保育士 稲葉 彩音

これから皆さんと一緒に働きます。美作大学出身の稲葉彩音です。大学までスポーツに打ち込んで来ました。子どもた

児童養護施設 鳥取こども学園

園長 田中 佳代子

「平成」が終わり、「令和」を迎え新たな流れが動き始めています。児童養護施設も新ビジョンが発表されてから、県を中心に今後あるべき姿を検討しているところです。国の動向を見据えながらも、流れに惑わされる事なく、「子どもの権利」を守り、「こころ」を育てて良かった」と子どもたちが振り返ることができる施設を今後も追求してゆきたいです。多くの職員の子どもに対する熱い想いを感じ、日々感謝の連続です。関係者をはじめ地域の方々のご支援も感じます。感謝の気持ちをもって一年を有意義にしたいと思います。

私の役割

ブロック長 坂口 泰司
今年度より、ふじホーム、ひまわりホームと地域小規模児童養護施設がつらぎの家のブロック長の役割を与えられました。昨年度までは地域小規模児童養護

ちにもスポーツの魅力、何かに没頭する楽しさを伝えていき、一緒に成長していきたいです。これからよろしくお願ひします。

◆さくら家のホーム



児童指導員 柿田 真之介

こんにちは、島根県から参りました柿田です。これまであまり縁の無かった土地での生活で、不慣れな部分はまだありますが、子どもたちのより良い生活に貢献していきたいです。よろしくお願ひします。

◆こまつ家のこまつ



保育士 松岡 沙織

4月からいろいろごりに配属になりました。松岡です。
子どもと共に、歩んでいけたらと思います。



学園だより

施設で6年間、勤務をしていたので久しぶりの学園、また今までは違うブロックでいろいろなことが分かります、子どもたちやホーム・家の職員に聞きながら学びたいと思っています。

10年へい前、ふじ・ひまわりホームの玄関前にさくらんぼの苗木を植えました。その木も背丈の2倍へいになりました、今春たくさん花を咲かせています。ホームの職員に聞いてみると、今までは1~5しか咲いておらず、こんなにたくさん花をつけたのは初めてです。受粉もしたので、今の楽しみは、たくさん実ったさくらんぼを鳥に食べられる前に、しかもベストな状態で収穫すること、そしてみんなで食べるということです。

ブロック長の役割は何なのか?と考えたりしました。家族支援と職員育成などがそのことなのでしょうが来たばかりの私より、ホーム長を始め各ホーム・家の職員の方がすごいです。やることも早いです。子どもたちの為に一生懸命になつて、とても熱意を持っている方々でして頼れる存在です。私が偉そうに言うことは何もありません。ただ、少し余裕がない気がします。若い職員の方で「頑張ります!」と言われることがあります。



◆かいらんぼの家



支援員 飯田 敦子

かいらんぼの家で迎えるはじめての春です。よろしくお願ひします。ただただ緊張の連日ですが、職員さんや子どもたちが暖かく迎えてくれたり感謝感謝です。少しでもみんなの胃袋を笑顔にできるよう頑張りたいです。

鳥取子ども学園乳児部

大きくなったかな？ さくらんぼ

主任保育士 渡 美田紀

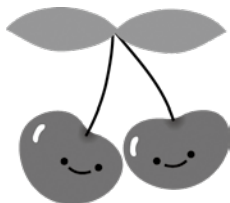
今年も学園前の校士手の桜は見事に咲き誇っていました。その実が大きくなったかな？という話では決してありません。

元号が令和となって日も浅いのですが、これは平成30年9月に香川県で開催された中国・四国地区乳児院協議会で地

域支援に関する実践報告として「大きく

なあれ、さくらんぼ」という表題で発表したものから派生したものです。慣れない発表であれもこれもと欲張って組み込んでしまった為、持ち時間を大幅に超過してしまい、後続の発表者の方々に迷惑をおかけした苦い記憶と讃岐うどんが美味だった記憶が蘇ります。

『大きななあれ、さくらんぼ』って何のこと？とお思いの方が大多数だと思います。冒頭から再々出てくるワード『さくらんぼ』。まずはこれから紐解いていこうと致します。



『さくらんぼ』とは、乳児部が平成27年に始めた一時保護委託及び子育て支援短期事業（ショートステイ、トワイライトステイ等）の児童の別室での受入を目的とした「チームさくらんぼ」として種が時かれ、発芽しました。その後、専用の部屋の設置とリフォーム、職員の増員、関係機関との連携等によって枝を伸ばし、実をつけ平成29年には「チームさくらんぼ」から「さくらんぼホーム」へ

新任職員の自己紹介



保育士 徳安 莉奈

4月より乳児部さくらんぼホームでお世話になっております徳安莉奈です。まずは一日でも早く仕事に慣れ、職員の方と連携しながら、明るく元気よく頑張りたいと思います。子どもたちに寄り添い子どもたちを大切にしていきたいです。子どもたちの成長を近くで感じられるという事を誇りに思い、子どもたちと一緒に私自身も成長していきたいと思っております。よろしくお願ひします。

鳥取子ども学園希望館

新元号「令和」の始まりに向けて

館長 花川 治 応

「平成」が終わり「令和」が始まるという区切りの年の春、希望館からも2人の若者が巣立っていきました。日頃はシャイで無口な、いかにも18歳の男児に見えていた彼らは、職員との別れ会で見送るほどよくしゃべり、立派なあいさつを披露して「青年」の顔を見せてくれました。ホームの職員は彼らが困った時にいつでも連絡してくれることを安心して涙で見送りました。日頃の努力が報われた思いと寂しい思いが交錯する春です。

一方、4月に新しくホームに配属される職員に対して、学園の子ども達はいろんな反応を示してくれます。妙にハイになる子もいるし、不機嫌になる子もいるし、とにかくみんな落ち着きません。「新しい職員が来るたびに上手くやれるか怖くてしょうがない。春は嫌いだ」と揺れる不安を見事に言葉にしてくれた

しかしながら、入所の方はどうでしょう。「新しいジョン」の影響なのか在宅支援が増えた為、乳児院なのに乳児不在で閑古鳥が鳴いているではありませんか。これはこれで子どもたちには手厚く関わることができ、のんびりゆったり過ごせる良い時間だったと思えます。

しかし、この後から1年近くなかった入所が立て続けにあり、あれよあれよという間に定員を満たす勢いで、さくらんぼホームの受け入れ枠（定員内）がなくなるほどです。さらに新生児をはじめとした乳児の入所もあり、一気に活気に溢れたと言いますか、泣き声が溢れたと言いますか、大変賑やかに乳児院らしくなりました。

そして年度末、3才の子どもたちが乳児部から巣立っていき、ほんの少しだけ静寂が訪れています。この入所の波が一定ではなく大波小波で押し寄せる為、当院は昨年度に遡って暫定定員（15名↓13名）になることが決定しました。風いであるからと言って乳児院の器を小さくしてしまったり、いざという時預かりの必要な子どもたちはどうすれば良いのでしょうか。いつ大波が来ても良いよう体制を維持できるようにして頂きたいと切実に願います。

最後に、今年度のさくらんぼホームは子がいます。仕方の無いことはいえ、彼ら彼女らの不安の深さは職員の想像を遙かに超えているのだと思ひ知らされます。また一つずつこれからの生活の中で薄紙を重ねるように安心できる関係を築き上げて行くしかないのです。この積み上げがきっと彼ら彼女らに「内なる者」として残りますようにと祈りながら……。

今年が大きな節目だと思わせる出来事がもう一つあります。希望館の開設当初から心理職の要として関わっていたいた山下学副館長兼家庭支援センター所長が3月末を持って退任されました。希望館における「生活の中の心理治療」を理論と実践の双方で築き上げてこられ、児童心理治療施設における「心理治療の精神的支柱」といえる存在でありました。山下副館長があらなくなると知って、職員のみならず子どもやOB、保護者の方々が改めて存在の大きさを思い知っているところです。不安ではありますが、残された者で指導頂いたモノを振り返りながら継続して行かねばと気を引き締めている次第です。

4月からは福岡の知的障がい関係の施設長として活躍されています。ますますのご活躍をお祈りしております。この紙面を借りて改めて山下副館長に感謝申し上げます。ありがとうございました。

学園だより

と言いますと、例年になく4月1日から定員一杯の利用児童と共に生活がスタートしたわけですが、その分お断りすることも多く、大変心苦しく思っております。4月から職員7人体制となり、半分の職員が昨年度から入れ替わりましたが、新しい実が実りそうな予感があります。入所のホームのよつに日々特定の子どもたちと愛着関係を育むというわけにはいきませんが、保護者から離れて不安な子どもたちに寄り添い、受けとめ、安心・安全な環境を提供することに尽力、保護者支援、地域支援、虐待防止の一助を担っていることをやりたいと考えて職員一丸となって走っていきたく思います。またいつか大きく実ったさくらんぼを皆様にご報告できるよつに努めて参ります。



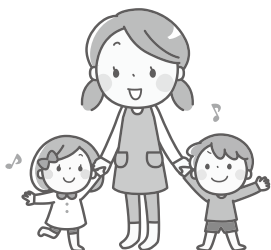


一人ひとりがそれぞれ成長し、素敵な花を咲かせることが出来るよう、今たっぷり愛のシャワーを注いでいきたいと思ひます。まずは保育士や友だちとの心地良い関係を築き、それを基盤としながら家庭や地域の人々との世代間交流を通して、心豊かに成長していけるよう、社会全体で子ども達を見守り育てていくことが必要だと感じています。



保育士 横山 彩子

ひよこ組を担当させていただく事になりました、横山彩子です。一人ひとりにしっかりと寄り添い、子ども達の日々の成長と一緒に喜んでいきたいと思ひます。よろしくお願ひします。



新任職員のご紹介



保育士 新野 みさき

春からほし組の担当をさせて頂いています。子どもたちから元気とパワーをもらいながら、日々楽しく過ごしています。子どもたち一人ひとりの関わりを大切にしていきたいながら、一緒に成長をしていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。



保育士 岩崎 星華

ひよこ組の担当になりました、岩崎星華です。子どもが楽しく過ごせるよう、笑顔で元気に頑張ります。これから、よろしくお願ひします。



保育士 原田 康平

本年度からひよこ組を担当する事になりました、原田康平です。社会人一年目で未熟な部分も多いですが、子ども達と一緒に成長していきたいと思ひます。よろしくお願ひします。



調理補助 村田 直子

給食の調理補助をさせていただく村田直子です。安心、安全でおいしい給食作りのサポートをしていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

我々も「令和」の始まりに向けて、新たな気持ちで気を引き締めてスタートしていきます。

新しいスタッフも加わり、もう一度職員全体で理念の再確認と入所部門・通所部門・外来部門の連携を強化して、地域に貢献できる施設を目指して今年も取り組んでいきます。

新任職員のご紹介



児童指導員 西山 彰彦

はじめまして。宮崎県から来ました。西山彰彦と申します。野球・陸上・バドミントンの経験があり、スポーツが大好きな新米職員です！

自分自身に正直に生き、誠実に子ども達と向き合っていくつもりです。児童福祉の最先端をゆく鳥取子ども学園の一員である自覚と喜びを胸に、子ども達と一緒に成長していける日々を送っていきます。よろしくお願ひ致します。



児童指導員 川口 目之

今年度からさつきホームでお世話になる、川口目之です。

いろんな壁に当たることが多く、覚えることも多いので大変ですが自分出来ることを精一杯行い、子ども達に信頼してもらえようになりたいです。



看護師 大西 理香

希望館看護師の大西理香です。8月16日が誕生日です。現在は日が変わりますが、鳥取しゃんしゃん祭りの日に生まれたのが嬉しかったです。このように些細なことに喜びを感じます。職員の皆様、宜しくお願ひ致します。



保育所 鳥取みどり園

心の花を咲かせましょう

園長 中村 秀子

今年も新たな春の訪れとともに新入児28名を迎えて新年度がスタートしました。登園時は別れがつかう後追いついてきた子ども達も保育士に抱かれて泣いていた子ども達も保育士に抱かれて絵本を見たり、友だちと一緒に過ごしたりするなかで少しずつ泣きやみ、自分で気持ちを切り替えて遊びだす姿が見られるようになってきました。近頃では小さな友達と泣いている姿に気付いて年上の子どもが優しく頭をなで、顔を覗くほほえましい姿も見られます。かわいらしいその姿に心とむと同時に子ども達のちよつとした成長の場面を見ることが出来、とても嬉しく感じます。

れ、応援ソングともなっている曲です。「2020年の東京オリンピックとその先の未来に向かって頑張っている全ての人に送る応援ソング」で、昨年度よりみどり園の子ども達の間で一大ブームとなっていました。毎日「パプリカしたい！」とリクエストし、振り付けを覚えて楽しそうに歌い、踊っています。年長児が踊る姿を見て年中・年少児も真似て踊りの輪が広がっています。「この曲を聴いた子ども達が小さな世界を元気に生きていくための糧となりますように...」という作者のメッセージが込められており、その名のとおり元気の源となる歌であると思ひます。

パプリカ 花が咲いたら
晴れた空に種をまこう

パプリカ 夢を描いたなら
心遊ばせあなたに届け

「種をまへ」→「これから芽吹く」＝未来に向かう大きな力を持ったこの歌の通り、今後を生きる子ども達が夢や希望を持ち、明るい未来を歩んでいけるよう、人と人とのつながりを大切にしていきたいと思ひます。近い将来、子ども達

診療所

川口孝一クリニック

忘れ去られ、そこに『居』
続ける役割
+ 新たな役割(?)

院長 川口 孝一

死にたい程に辛い時や、心が乱れる時は誰もが思うと思います。程度は人それぞれですが、人と比べられるものはなく、自分自身の辛さが一番だと思ひます。時にはお薬の助けが必要な時もあると思ひます。でも、心が平穏になれば、お薬を飲み忘れたり、お薬の存在や病院へ行くことすら忘れてしまうこともあるでしょう。そうならば当然川口の存在も忘れ去られるでしょう。それで良いのです。そうならなければなりません(精神安定剤も、病気によっては、高血圧や糖尿病の様に、長期間服用しなければならぬ場合も多々ありますが)。私たち精神科医は、安定剤の様に忘れ去られる存在でなければならぬのです。お薬と同じで依存的になり過ぎて、副作用が出てまいけません。その事です。精神科医は、そんなちよつと寂しい、割の合わない役

割のお仕事なのです。ひっそりこっそり『裏』(最近は駅裏も無くなりました)のお仕事なのです。寂しさのあまり、せつなく自立し離れて行くこととされている方の足を引っ張ってしまおうになることがあるかも知れません。皆さん気を付けて下さいね。『優しさを大切に』親切もどき』は曲者(くせもの)です。要注

でも人生、平穏な日々ばかりではありません。再び辛い事に出会うかも知れません。そんな時、思い出して下さい。『あそこに行けば、あいつ(川口。老いぼれているかも知れません)が居る』と。会って、しばらく付き合っていて、必要無くなったら、再び捨て去って忘れて下さい。繰り返しになりますが、そんな形で(良い意味で)利用して頂くのが、私たち精神科医の役割です。

の、はずだったので、近年ちょっと異変が。どんな異変かと言いつつ、患者さんが、主治医の私を結婚式に招待してくれるようになった事です。これまで、5組のカップルに。『裏』の存在の精神科医の私が、『表』、しかも人生の晴れ舞台に参加させてもらって良いの?』と戸惑いましたが、偏見のない彼女らに敬意を表しつつ、有り難く出席させて頂きました。足がつる程に緊張しま

したが、嬉しかったです。と言いつつ、鳥取駅も『駅裏』が無くなり、『北口』『南口』と呼ばれるようになり、時代が変わってきました。今年還暦を迎える私が今更ですが、「忘れ去られ、そこに『居』続ける役割」と言う基本忘れずに、今と言いつつ時代・社会に求められる役割を更に模索し続けてみたいと思います。教えてくれるのは、きっと子どもたちだと思えます。

児童家庭支援センター「希望館」



所長 山中 八寿子

就任のご挨拶

4月から山下前所長の後任として着任しました山中と申します。よろしくお願ひ致します。

この3月まで行政で働いており、退職までの11年間は「子ども家庭相談支援と婦人相談・子ども虐待防止」を行う児童福祉部門で働いておりました。その間、

れば極力、家庭に近い環境で行う、という方向に舵が切られましたが、では、鳥取県ではどうなのか、とどうなのかを考える「鳥取県社会的養育推進計画策定検討会」が、昨年度、毎月のように開かれました。

毎月の全体検討会に向けて、作業班として「子どもの声を代弁し、意見の表明を支え、権利を守る取り組み」と、「里親さんに子どもを預けることの進め方」と、「施設の高機能化、多機能化、機能転換、小規模化かつ地域分散化への取り組み」と、「子どもが社会に巣立つ際の支え」の4部会が設けられました。

「里親さんに子どもを預けることの進め方」の部会は、鳥取県里親会の三部会長と、鳥取県福祉保健部子育て王国推進局青年・家庭課の参事と、私の5人で取り組みました。多くの調査を行い、得られた膨大なデータを分析し、そこからみえてきたものを計画におとこむため協議を何度も行いました。話し合いは常に白熱し、ある日などは、朝から晩まで、8時間を超えて意見を戦わせました。児童福祉に長年たずさわられた参事は、この取り組みを最後のおつとめとして退職されましたが、協議にも、全体の進行にも、子どもたちへの想いがこぼれに込められていました。

調査については、鳥取県の全部の里親さんや、児童相談所、各施設はもちろん、里親さんの家で今現在暮らしている子どもたちならびに、里親家庭で生活された経験がある社会人の方にも、意見をくださるようお願いしました。

里親さんの家で生活している子どもに、あらたまつて、ペーパーで聞き取りをお願いするといったことは滅多にありませんので、「こういった大事なことは対面で聞き取りをしてほしい」とうちの子どもは、普段自分を『里子』と思って生活していないから、このような書面であらためて『里子』だと感じさせたくない」といった意見も聞かれたのですが、それでも、多くの子どもたちが、丁寧に一生懸命答えてくださりました。

中には、里親さんに伝えていない口頭の感謝の想いを、考えうるありつたけの表現を使った長文で綴っていた子どもがいました。ある社会人の方は「本当の家族のように過すことができ、今となれば、感謝以外の何物でもない」と、真摯で正味なことをしたためていらっしゃいました。こういったことばのひびこりつとを、宝物のように大事に大事に、計画の骨子の案に練り込みました。骨子の案は、これから、審議会を通ったりですか、県

鳥取子ども学園の皆様には大変お世話になると共にご指導頂き誠にありがとうございます。中でも、要保護児童対策地域協議会や養育支援訪問事業、子育て短期支援事業等は鳥取子ども学園の方々と共に築いてきた協議会や事業と思っております。感謝申し上げる次第です。また、子どもたちの福祉向上に対する支援業務においても、児童相談所と鳥取子ども学園が両輪となって進まれた事をありがたく思っております。

平成最後、そして、令和最初の年に歴史ある鳥取子ども学園でお仕事させて頂けることを嬉しく思っております。

4月1日の辞令交付の際、藤野理事長から「子どものため」ではなく「子どもとともに」という言葉を頂きました。

このことばを大切に、職員の皆様と一緒に頑張って、子どもとともに歩んでいきたいと考えておりますのでよろしくお願ひ致します。



民の方の意見を聞いたりですか、そういった手続きを踏んだ上で、正式な計画となります。多くの方の想いが凝縮されたこの計画は、必ずや、子ども達の最善の利益につながることを確信しています。

自立援助ホーム 鳥取フレンド

新年度によせて

鳥取フレンドスマイル 統括寮長 山中 友子

昭和59年(1984年)、OBの家として発足した鳥取フレンドは、当時の児童養護施設を退所した、出身者と職員有志の熱い思いから立ち上がりました。始まりは、出身者の方々の社会へ出てからの生活苦であったり、孤独感であったり、私などには想像のできない思いを抱えられ、結果として、不幸な出来事となったところからです。それを受けて「このままでいけない。なんとかしなくては」と、周りの出身者の方、職員有志により、アパートを借り上げ、OBの家として出発されました。自立援助ホームとして、場所を変わり、人も変わ

○子ども家庭支援センター「希望館」では、家族・子育てについての悩みや、子どもに関するあらゆることの相談に応じています。相談料は無料です。

●電話相談

月曜日～金曜日 朝9時～夜12時 (緊急の場合は、休日、祭日、時間外も24時間対応します)

●来所相談

開所時間 月曜日～金曜日 朝8時30分～夕方17時30分 専門の相談員が対応します。

里親支援機関 里親支援センター「希望館」

「推進計画」骨子案作成を終えて

所長 遠藤 信彦

厚生労働省の号令により、保護を必要とする子どもを預かる取り組みは、できる限り家庭において行い、それが難しけ

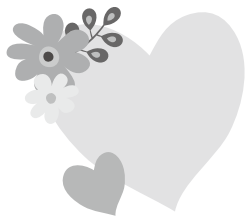
りながら、現在に至っています。当初の熱い思いを私たちは、忘れてはならないと思っております。

そして、平成17年(2005年)、倉吉入マイルが立ち上がりました。社会では、少年による犯罪が問題になっている時で、立地の際には、寮長さんたちが、地域の方々に説明を繰り返され、理解していただいていた立ち上げとなりました。大変な事も多くありましたが、子どもにも、保護者にも丁寧に応じられ、地域の運動会、合同作業にも参加して、地域に認められるところとなりました。現在は、鳥取入マイルとして、鳥取市西町で、鳥取フレンドと共に協力体制をとって運営しています。

最近の入居者の傾向として、虐待、ひきこもり、発達障がいによる生き辛さをもつ人が多くなっています。社会での経験不足で、対人関係に不安を持っているようにも見えます。自立援助ホームの役割としては、まず居場所になり、次に生きていくための生活スキルを身につけること(仕事をしてお金を稼ぐ、お金の使い方など)。そして、大事なことは、本人の意志で選択すること、本人と繋がる人がいることと考えます。日常生活では、イレギュラーな事も多くありますが、自分の目標に向かってい

ける時、いけないうつを繰り返しながら、生活していきます。

地域の皆様、関係機関の皆様には、日頃より、ご理解とご協力を頂き、感謝しております。今後ともよろしくお願ひします。



自立援助ホーム 鳥取スマイル

「怒」はいらない!?

寮長 田村 崇

わたしは子どもの頃、明治、大正、昭和の3時代を生きてきた人々を、生きた化石、みたいに思っています。しかしこの度、わたし自身が昭和、平成、令和の3時代を生きていることになり、自分自身

が、生きた化石、になってしまったなと思つ今日この頃です。

令和、元年、皆様はどんなスタートを切つたでしょうか？

4月、鳥取スマイルは若者男子6名の生活が始まりました。一人一人が新たなステップへ向けてのスタートです。当たり前のことですが、人それぞれが個性を持ち合わせています。ここで生活する若者も、スタッフとして共に生活をする大人も…。

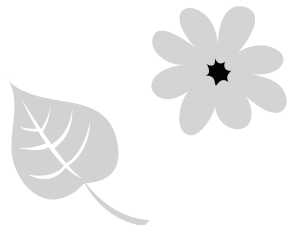
鳥取スマイル、という小さな集団の中で、実社会の現実の中で、私たちは日々の生活を送ります。一人一人が違った環境で育ち、違った経験をし、違った出会いの中で生きていきます。当然、意見の違い、考え方の違いを目の当たりにし、悩み、苦しみもたくさんあります。しかしわたし達人間はその中で生きていくのです。

「喜怒哀楽」

説明するまでもなく、人間が持つ代表的な感情を表現した四字熟語です。

わたしはこう思うようにしています。わたしが生きていく中でこの「怒」はいらない！と。

関わる様々な分野の統合化を意識しつつ、鳥取養育研究所の活動を展開していきたいと思ひます。今後ともご支援ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



障がい福祉サービス事業 はまむら作業所

チームとしての成長

管理者 山岡 宏樹

新緑の季節、はまむら作業所は、今日も軽作業・農作業などに、休憩時間にはおしゃべりに元気がいっほいです!! 昨年関係法改正の中で「施設の外での作業」に関する事が一部変更され、積極的に企業等での作業がよりしやすくなり

「怒」の感情を消し去るという事ではありません。この「怒」を人に向けず、いつまでも引きずらないという事です。自分の中に出てくる感情は素直に受け入れます。でも閉じ込めません。ありのままの感情をありのままに受け入れていきます。ただ、そのネガティブな感情を理由に、動きが止まることは望ましくありません。だから、いらないという表現なんです。

ポジティブな表現に変えます!

「喜楽(気楽)に生きよう!これです!

どんな時でも喜びに満ち溢れ、自分が楽しいと感じることを笑顔と感謝、そして尊敬の気持ちを忘れずに生きていきたい!これがわたしの思いです。

わたしはまだ未熟です。完璧にこの生き方を実行できているわけではありません。しかし、この思いを忘れずに抱きながら、この令和の時代の中を積極的に生きていきたいと思っています。その活き活きと生きている姿を若者たちに見てもらいたいと思っています。

日頃よりご支援いただいている皆様にご心より感謝申し上げます。今後ともよろしくお願ひ致します。

ました。私達もいろんな作業に関係機関よりご紹介頂き(県の農福連携事業担当者さん、障害者就労事業振興センターさん等の紹介)、企業さんの協力のもと日々活動しています。開設当初、日中3人程度だった一緒に活動しているメンバー(利用者さん)も昨年度は14人と増え、軽作業や農作業においてもチームや作業別、目標別に活動するようになり始めました。また、スタッフも個別のメンバーを支援すべく以前よりは手厚く配置するよう心掛けております。その結果、作業場面では良い意味でメンバーお互いが時に競い合い、時にフォローし合い、「他者」を意識し作業するようになつて変化しています。また、作業によって達成すべき作業ノルマや時間等も意識するようになり「就職してみたい」という芽生えもメンバー自身から出ています。いつも成功やいい事ばかりではありませんが、メンバーのこうした日々の変化や成長が、スタッフがメンバーを応援したくなる原動力になっているのを日々感じています。事業を開始して8年目、続けてよかったと思ひます。

はまむら作業所を活用するメンバーがこれからも事業所内外で楽しく就労活動し、日中安心できる活動の場・居場所として存在し続けられよう、事業所として

鳥取養育研究所

言葉の大切さ

事務局長 藤野 謙一

「初めに言(ことば)があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。」(ヨハネによる福音書第1章1〜3節)。イエス・キリスト(聖書)は、「言」によって世界を変えました。クリスチャンの内村鑑三は、「純潔な思想は書を読んだだけで得られるものではない。心に多くの辛い実験をして、多く祈つて、戦つて、その後には神より与えられるものである。このような思想は血の涙のかたまりである。心臓の肉の断片である。そのため刀をもってこれを断てばその中から生き血が流れ出るものである。文は文字ではない、思想である。」と言っています。

しかし、施設の子どもたちに最も近い職員(養育実践)子どもとの関係性等には、言葉にするのが難しい、科学的に測定はできません。だからこそ、研究者

成長をし続けていきたいと思ひます。その為、日々の支援だけでなく、法人内外での活動理解、協力にも努力を重ねていきたいと思ひます。(施設間交流等での研修会参加、学園のごも達の野菜つくり体験等協力など)

開設当初から大事にしている、一人ひとりのメンバーの思いや考えを大事に日中活動する事、個々の状況に応じた支援が行えるよう支援機関と協力する事、丁寧にメンバーや御家族に向き合う事、何より、法人理念をもとにした「鳥取ごもも学園の障がい福祉サービス」はまむら作業所」である事をスタッフ一人ひとりが確認し活動していきたいと思ひます。

これらもたくさんのお支援よろしくお願ひいたします。

新任職員のご自己紹介



支援員 森川 仁美

この度、はまむら作業所で働かせていただきます。1人1人と向き合いながら、力になれるように頑張っていきます。よろしくお願ひいたします。

学園だより

がエビデンス(根拠)に基づいて上手に言葉を使い、政策を動かしていく枠組みの中では、現場の声はかき消されてしまっています。

近年、世界では「ソーシャルペダゴジー」と「チャイルドアンドユースケア(CYC)」という学問体系が研究者の中で見直されつつあります。これは、まさに養育実践現場の取り組み・思想を言葉で表現していくことだと思ひています。皮肉なことに、この最新の研究は、海外の表面的な取り組みを真似する日本の風潮の中で、鳥取ごもも学園やいくつかの泥臭くやっている日本の施設の取り組みを言語化しているようなものにも見えます。

鳥取養育研究所では、昨年より鳥取大学と協働で、カナダにおける「子どもアドボカシー」と「そのスタッフ等の人材育成過程(CYC)」の研究をしています。

昨年お会いしたCYC研究の権威、ケアレス・ガラバーギ教授(ライオン大学)は、大学での人材育成を「社会正義のために戦う戦士」を育てている」と表現しました。すごい言葉です。これからも引き続き、実践現場で起こっていること、実践者の声を中心にしながら、理論と実践の融合、細分化された養育に

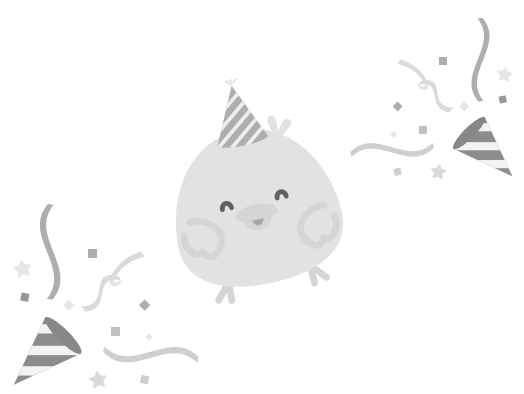
事業所内保育施設 とりっこらんど

はじめまして とりっこらんどです

チーム長 上野千鶴

土手の校も満開のなか、学園内土手沿いに2019年4月1日、とりっこらんどを開所致しました。とりっこらんどは事業内保育施設で、学園で働いておられる職員のお子さんはもちろん、複数の企業で共同設置していますので、提携している企業で働いておられる方のお子さん、また、地域のお子さんの受け入れも行っていきます。隣には病後児保育所も併設しており、急性期を過ぎた回復期のお子さんをお預かりしています。そして、多様な働き方にも対応するため、週2回（月曜と木曜）の夜間保育、土、日、祝日も保育を行います。そのため従来の保育所では利用が難しかった子育て家庭にも利用して頂きます。対象年齢は3ヶ月から2歳児までで、病後児保育は就学前までとなっております。定員はとりっこらんど9名、病後児保育所4名と少ないですが、子ども一人ひとりの気持ちを受

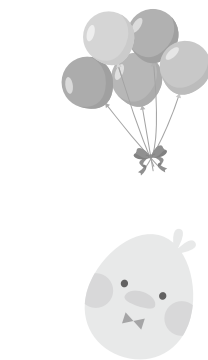
け止め、安心してのびのびと過ごせるよう寄り添いながら、家庭的でアットホームな保育所を目指しています。ただ子どもを預かる場所とならないよう、常に保育の質というものも問いながら保育にあたっていきたく思っています。働くお父さん、お母さんが安心してお子さんを預けることができ、仕事と家庭の両立ができるよう、微力ではありますが職員一人丸となって保育に努めて参ります。開所したばかりで何かと行き届かない点が多々あるかとは思いますが、さらに詳しい概要につきましてはいつでもお気軽にお問い合わせください。皆様のご支援とご協力をどうぞよろしくお願い致します。



とりっこらんど



とりっこらんど保育室



病後児保育棟



病後児保育室棟安静室



新任職員の自己紹介



保育士
杉本 萌々花

岡山県内の短期大学を卒業し、就職を機に鳥取へ戻って来ました。小学生の頃からピアノをしていたり、学生時代、部活動で吹奏楽部に所属していたこともあり、楽器を演奏することが大好きです。保育士として、社会人として成長できる一年にしたいと思えます。

ひだまり

新しい風

就労支援員 山根潤子

ひだまりは、鳥取県内の児童養護施設等を退所した方や、退所を控えた児童へ生活支援・就労支援・自立研修開催・施設出張訪問（キャリアアカウンセンリング）等を行っています。

新年度が始まって3ヶ月ほど経ち、新

生活・新しい環境に踏み出した退所者や年度変わりと共に変化が起こった者などどんな日々を過ごしているでしょうか。日常の中で、予測できた変化や予測していなかった変化、起こらなかった変化とさまざまありますがその状態をどのように捉えよう過ぐすのか…。状況を自分なりに分析し、自分自身のことをよく考え、周囲の受けられる支援を確認し、どういった戦略で対処していくか…。

個々人のこともですが、部署やチームとしても、所長を筆頭に日頃お世話になっている皆さんのお力も拝借しながらチーム一丸となり与えられた使命をこなしていけることができるよう日々精進していきたいと思えます。日頃の感謝と共に、これからもどうぞご指導・ご協力の程よろしくお願ひいたします。

さて、ここで少し昨年度の取り組みと今後について報告させていただきます。1つ目に、OB・OGのアフターケア支援（生活・就労）です。社会に出た後、生活面や就労面などで困ったことやトラブルに直面する機会があります。住居、人間関係、健康、お金の問題などすぐに解決が難しい場合もありますが専門機関の協力を得ながら対象者と共に問題解決に向けて進めています。



自立研修

2つ目に、昨年度はソフトバンクチャリティスマイル第2回「社会に巣立つ応援助成」を受け、退所後の豊かな未来を目指すつながりバトン事業（自立研修開催・キャリア形成支援）を実施しました。

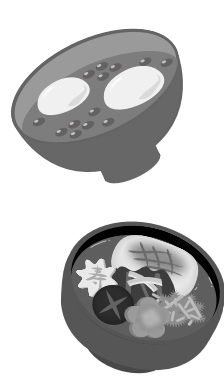
自立研修は社会的養護施設入所中の主に高校生以上を対象に、7月「～上手にお金と付き合おう！ ver. 2～」、10月「～はたらくセンパイ～元プロボクシング選手 トークショー」、1月「準備はOK!? プレ社会人デビュー大作戦！ ver. 2（テーブルマナーつき）」を開催しました。また、キャリアアカウンセンリング、履歴



職場体験

3つ目に、自助グループ（レインボーズ）の育成です。現メンバーの推薦を受け新規加入が4名ありました。12月のも

氏名	氏名	氏名	氏名
社会福祉法人 南野育成園 園長 三宅嗣朗	加藤 藤和 徳 (株)代表取締役 桑村力達 高齊 下常 畑八福前山	河哲 田信 武井 中川 中本 前田 井上 井岩 植小竹谷 池上 稲村 岩瀨 大島 片村 小羊チャイルドセンター代表 市川 田中 中村 浜村 望月 湯吉 米若 丸 中能 前下 山根 柏木 愛伊 岩田 影柏 (株)懸樋工務店代表取締役 三協レンタル 田中 鳥取医療器(株) 会長 民木一美	日本基督教団 用瀬教会 牧師 稗田みどり 野津医院 野津史博 平尾正人 ホテルモナーク鳥取 東邦笑子 廣谷るり子 日本基督教団 米子教会 本願寺 吉田由喜江 (有)家電のきのした 代表取締役 木下敏明 鳥取県労働者福祉協議会 東部支部 支部長 磯見義春 谷口秀真 大月和銀 行チョコレートケーキ法隆寺 上映実行委員会 カフェティメソン ひとつ屋根の下 若木太郎 浅田悦子 田村愛子 石壁修三 渡福川敬 砂川晋治・真理 (有)赤山建築設計事務所 加藤藤由敏 久彦樹鶴 藤水秀智 高橋ナキ アサヒナキ 熱藤井谷夏万寿 神谷詔田瑛伸潤美津 古川北江智鶴 岡本山順 丸山 鳥取新生協 鳥取県教職員組合東部支部 悲眼院 高橋昌文 増田千建 久大建 材
正林 白井 田中 田村 寺坂 菜の花 西尾 橋詰 長谷 濱本 林敬二	藤 夕小 村力 藤田 井田 山根 青果 (株)代表取締役 岸田ガラス (有)代表取締役 市谷成 伊藤友理 江谷孝シ (株)ミナミコーポレーション代表取締役 岡本安量 (株)メモワールイナバ 河本充みつえ 菊地祐子 サンユー技研工業 (株)高野中 仲谷 田 瀨陽健二 日海通信工業 (株)野林堀内松宮盛 八幡東栄工ステート (株)代表取締役 山本智八 尾崎藤丸 漁業 (株)信勝丸 山岡寛人 (株)代表取締役 葡萄山根一利 岸田榮政 坂根水	滝河 哲郎 武田 信照 土井 勝子 中川 正道 中本 久美子 前田 宏治 井地 原忠実 井上 仁・恭子 田 美公房 橋本 芳尚 谷口 豊一 池上 聡一 稲村 秀彦 岩瀨 明美 大島 義典 片村 俊也 門脇 佳子 小羊チャイルドセンター 代表 市川 益子 田中 陽一 中村 健二 浜村 素子 望月 彰仁 湯吉 正由美 米若 丸重信 丸 哲訓 中能 悦裕 前下 園浩 山根 稚亮 柏木 兼真 愛伊 久真 岩田 兼真 影柏 木 徹 義樹 (株)懸樋工務店 代表取締役 三協レンタル 田中 昶 (株) 鳥取医療器(株) 会長 民木一美	日本基督教団 用瀬教会 牧師 稗田みどり 野津医院 野津史博 平尾正人 ホテルモナーク鳥取 東邦笑子 廣谷るり子 日本基督教団 米子教会 本願寺 吉田由喜江 (有)家電のきのした 代表取締役 木下敏明 鳥取県労働者福祉協議会 東部支部 支部長 磯見義春 谷口秀真 大月和銀 行チョコレートケーキ法隆寺 上映実行委員会 カフェティメソン ひとつ屋根の下 若木太郎 浅田悦子 田村愛子 石壁修三 渡福川敬 砂川晋治・真理 (有)赤山建築設計事務所 加藤藤由敏 久彦樹鶴 藤水秀智 高橋ナキ アサヒナキ 熱藤井谷夏万寿 神谷詔田瑛伸潤美津 古川北江智鶴 岡本山順 丸山 鳥取新生協 鳥取県教職員組合東部支部 悲眼院 高橋昌文 増田千建 久大建 材
はやし社会保険労務士事務所 林義雄	山根青果 (株)代表取締役 戸田暖久	医療法人さとに田園クリニック 理事長 太田匡彦	鳥取県労働者福祉協議会 東部支部 支部長 磯見義春
松川 真由美 松田 頼三 山木 康二 山田 敏明 (有)造園土木植清園 大塚 園蔵 (株)フジ電機 佐藤道男 井口 壬生 井上 裕直 岡垣 麻美 岡田 孝昭 小椋 孝 興洋工務店 代表取締役 亀井和子 木村野雅昭 草一ルおかげ 小竹原知寛子 小谷食品セクタ 近藤冷暖設備 (株)山陰竹内和恵 中電工(株)鳥取支店 西田原 信原ス電工 (有)パル寿みどり 福堀田弘晴 安山 本池原工業 (有)代表取締役 Living in Peace (特非) 安達裕見子	山根青果 (株)代表取締役 戸田暖久 (有)岸田ガラス 代表取締役 市谷成 伊藤友理 江谷孝シ (株)ミナミコーポレーション代表取締役 岡本安量 (株)メモワールイナバ 河本充みつえ 菊地祐子 サンユー技研工業 (株)高野中 仲谷 田 瀨陽健二 日海通信工業 (株)野林堀内松宮盛 八幡東栄工ステート (株)代表取締役 山本智八 尾崎藤丸 漁業 (株)信勝丸 山岡寛人 (株)代表取締役 葡萄山根一利 岸田榮政 坂根水	医療法人さとに田園クリニック 理事長 太田匡彦 岩瀨 明美 大島 義典 片村 俊也 門脇 佳子 小羊チャイルドセンター 代表 市川 益子 田中 陽一 中村 健二 浜村 素子 望月 彰仁 湯吉 正由美 米若 丸重信 丸 哲訓 中能 悦裕 前下 園浩 山根 稚亮 柏木 兼真 愛伊 久真 岩田 兼真 影柏 木 徹 義樹 (株)懸樋工務店 代表取締役 三協レンタル 田中 昶 (株) 鳥取医療器(株) 会長 民木一美	鳥取県労働者福祉協議会 東部支部 支部長 磯見義春



もちつき大会

ちつき大会、2月の退所予定者に向けた記念品贈呈では大活躍。今後も、若手育成のために自分たちが活動していく方向性を見つけていくことを話し合う会や場所の提供をしていきます。

引き続き、鳥取県内全域を対象に、対処的な生活・就労支援を行うことも、予防的な支援をおこなっていきます。今後とも、施設のみならず関係機関の皆様、地域の皆様、協力をしてくださいませ。方々のご支援、ご協力をお願いいたします。

当学園事業へのご寄付 後援会へのご加入に 感謝申し上げます。

前回報告以降、現在まで、ご寄付いただいた方々、後援会に賛同(会費納入)していただいた方々は、下記のとおりです。
心より感謝し、ご報告申し上げます。

寄付者 (H30.11.8~H31.4.10) 敬称略

氏名	氏名	氏名	氏名
明里好弘	宇野田祥子	光田澄子	西村法律事務所
小原隆三	澤下末春	村上悦子	日本基督教団 鳥取教会
川口アヤ子	竹田俊章	村大森慧幸	福田義喜二
田中和子	田口俊章	尾崎美佐代	藤井野喜興一
(有)メディアステーション代表取締役 金田雅子	土松江浜代	酒巻和可世	藤前田俊和
篠原祐三	山根健太郎	澤田和可世	前松永陽明
富山佳代	鳥取協会 シオン会	高橋伊佐夫	社会福祉法人 あけの星会
藤原七宝	尾崎信一郎	花木こどもクリニック	高橋伊佐夫
岡垣七宝	尾崎信一郎	花木こどもクリニック	高橋伊佐夫
八頭更生保護女性会	柿坂紀武子	半森田卓実	社会福祉法人 あけの星会
柴井上康智	田村明子	大福朝倉通一	高橋伊佐夫
尾村山嘉次	柴田隆嗣	福朝倉通一	高橋伊佐夫
鳥取友の会	綱島健一	雨河藤一文	高橋伊佐夫
高山本林	フルカワキミヒロ	伊井梅上	高橋伊佐夫
岡小野良子	松田悦昭	(医) たなか小児科医院	高橋伊佐夫
ホットほっとクラブ	生田百合子	石田信年	高橋伊佐夫
市政無森(有)ワ	市谷谷崎	市谷谷崎	高橋伊佐夫
吉村見	吉村見	吉村見	高橋伊佐夫

物品寄付者 (H30.11.11 ~ H31.4.8)

敬称略

氏名	氏名	氏名	氏名
田中 かずこ	松下 暢子	市谷 年弘	福 盧 寿 司
U F O 秋里店	倉 元 麻 美	鳥取県中小企業団体中央会	清 水 由 紀 子
U F O 吉方店	鳥取県共同募金会	(株) ヤ マ ネ 機 材	え が お (株)
U F O 扇町店	米 田 正 雄	井 上 信 正	保 木 本 俊
U F O 安長店	土 井 倫 子	清 水 博	清 水 カズ子
ガイア 広島駅前	日 本 鏡 餅 組 合	エフピコ上田(株)鳥取支店	田 中 仲 雄
福 田 養 蜂 場	理 事 長 樋 口 元 剛	鳥 取 鶏 卵 販 売 (株)	(株)安納スウィーツファーム農業生産法人
鳥取市立宮ノ下小学校5年生	浅 井 慶 紀	(株)光琳グループホールディングス	立 教 大 学 社 会 学 部
平 尾 直 織	(株)竹中工務店 鳥取営業所	鳥 取 更 生 保 護 女 性 会	石 井 研 究 室
(有)野藤商店	竹中工務店安全衛生協会 鳥取支部	坂 尻 恭 子	沢 義 幸
常務取締役 野藤 実	鳥取ヤクルト販売(株)	岩 淵 明 美	信 夫 正 規
大 賀	立川町五丁目二区町内会	福 田 眞	パンドラの箱鳥取店
全国シャンメリー協同組合	木下・大石法律事務所	鳥 取 県 立 中 央 病 院 小 児 科	福 寿 み どり
大 樹 寺	鳥取敬愛高等学校Sクラブ	堂 本 友 恒	商 工 会 議 所 助 成 金
江 谷 孝 明	田 原 コ ン サ ー ト (株)	メガネ工房ジョイルック	備ダスカジャパン クアテモック
スリーバー鳥取店	加 藤 貴 代 美	松 島 冷 子	河 井 和 子
鳥取市立修立小学校	中 川 盛 雄	大 坪 法 子	秋 崎 る り 子
高 野 晃 一	山 根 健 太 郎	海 陽 亭	長 谷 川 正 昭
農事組合法人 糸白見	無 名 氏	山 本 正 明	
代表理事 組合長 岡本和廣	大 川 美 智 子	本 光 寺	
溝 口 智 子	イオン津ノ井店	飯 田 順 子	

●寄付金は下記へお願いします

法人本部：〒680-0061 鳥取市立川町5丁目417番地 鳥取こども学園内
TEL 0857-22-4206 FAX 0857-23-0242

振込口座：郵便振替 01490-9-9106

鳥取銀行本店営業部

普通預金 7645611

山陰合同銀行鳥取営業部

普通預金 3422812

口座名義：社会福祉法人鳥取こども学園 理事長 藤野 興一

※なお、郵便振替は寄付金・後援会費共通口座となっておりますので、寄付金・後援会会費のどちらかに○をしてご入金ください。

●後援会会費は下記へお願いします

振込口座：鳥取銀行本店営業部

普通預金 0405970

口座名義：鳥取こども学園後援会

会長 村上 亜由美

【お願い】

この「学園だより」は、当法人にご理解、ご協力いただいている皆さまに、施設での出来事、様子等を報告する意味で発刊しています。

同封しています寄付金・会費の振込み用紙は、あくまでも皆さまの便宜を考えてのことですので、ご理解いただきますようお願い致します。

今後とも、当法人を温かく見守って下さいますよう、心よりお願い申し上げます。